

経済波及効果とは

COLUMN
県内
大学発

経世済民

「大谷翔平の2024年経済効果が分かります。」

効果は1168億円」と試算した人がいます。その内訳は、米国内の直接効果は観客動員の増加や消費増加額、年俸、放映権収入、広告料などで、日本国内の直接効果は観戦ツアー、グッズ売り上げなどです。直接効果と1次波及効果、2次波及効果を合算したものが約1168億円ということになります。同氏の23年の阪神優勝は約872億の経済波及効果という試算ですので、この「大谷翔平の経済波及効果」は1人のアスリートの活躍の結果といふレベルのものではない

ことが分かります。

経済波及効果とは「ある産業に新たな需要が生じ、その需要に対応する生産活動が拡大する」と、原材料や資材などの取引や消費活動を通じ、ほかの産業に次々と多方面へ影響を及ぼす過程のこと」です。言い換えるところ「新規の需要の発生によって生産が生産を呼び、最終的（究極的）に発生する生産額」のことです。

経済波及効果の推計方法は産業連関表の利用が一般的です。各産業は相互に、あるいは家計と密接に結びついて、互いに影

埼玉学園大 工藤 悟志

経済経営学部 准教授



響しあいながら営まれていきます。産業連関表（取引基本表・投入係数表・逆行列係数表・雇用量をセットにして呼称したもの）は、こうした各産業間および産業と最終消費者との間のモノやサービスの取引状況を一つにまとめたものです。現在、世界の70カ国以上の政府が産業連関表を使って経済分析、経済予測、経済計画をしているといわれています。この方法のメリッとはいくつかあり、①恣意性が排除される②全国各地で経済波及効果を推計するためにあまねく実施されており、先行研究が豊富に蓄積されている③種々のケースの経済波及効果の推計に対応が可能である、などです。産業連関表を使った経済波及効果の計算方法自体は理論的な背景があります。それでも、経済波及効果の数字をみる際には注意が必要です。それは、推計に誤差、不確実性が入りこむ要因がいくつもあるからです。それは、①入力となる消費の盛り上げりの見積もり自体が各種仮定に依存している②推計者のバイアスの影響がある③産業連関表自体が各種統計から生産額などを推計し、全体が整合するようにならなければならない④結果が実際データが簡単に手に入るわけではなく、容易ではありません。この「大谷翔平の24年経済効果」は約1168億円と試算した約5カ月前、同氏は、同経済波及効果を約865億と試算しています。このように推計に誤差や不確実性が入り込み、数字も変化してしまいます。経済波及効果が大きいと、それだけ投資や事業の正当性が主張できるでしょう。数字になると客観的で、信頼性が増すからです。だからこそ、その数字の算出理論や方法を調べて、理解することも必要かもしれません。参考までに、今年4月から開催されている「大阪万博は3兆円近い経済波及効果がある」と、日本政府は主張しています。はたして、実際はどうなるのでしょうか。いずれにしても、いろいろな数字が飛び交うことになっていくでしょう。

くどう・さとし 一橋大学大学院商学研究科 部科学省科学技術学術政策研究所客員研究員、博士後期課程。大手上場企業、外資系経営コンサルタント、東京外国語大学、上智大学などで非常勤講師を兼任。学術研究をいかした経営コンサルタント、企業研修も手掛ける。専門は経営戦略、経営管理、イノベーション・マネジメント。